



Dear Students

▶ [中野 香織さん 寄稿](#)

特集1 デジタル時代と学生生活

詳しくはこちら

We ♥ circle! 夢中になる快感。かけがえない仲間。

特集2

詳しくはこちら

教授の研究紹介
Now and Future

- ▶ [文学部外国語学科仏語専攻 教授 和田 光昌](#)
- ▶ [経済学部国際経済学科 教授 東 茂樹](#)

ゼミナール紹介
Seinan Front Line

- ▶ [文学部 福田 靖ゼミ](#)
- ▶ [商学部 高野 学ゼミ](#)

こんにちは先輩

- ▶ [大韓航空 福岡旅客支店 支店長 崔 白雲さん](#)

OB・OG FOCUS

- ▶ [第11回トップ・エグゼクティブ講演会開催](#)
- ▶ [岡部 史卓さん 旧司法試験二次試験に合格](#)
- ▶ [九州六大学野球創立50周年記念シンポジウム](#)
- ▶ [OB・OGの本](#)

教授が薦める本

- ▶ [法文学部英文学科 准教授 三宅 敦子](#)

就職支援ページ
後輩よ、大志を抱け!

- ▶ [TNCテレビ西日本 報道制作局アナウンス部 牧尾 結衣さん](#)

情報コーナー

- ▶ [本学教授の新書紹介](#)
- ▶ [西南メモリアル・コラム](#)

[Dear Students 39] 行き先を決める要因の半分はご縁、そんな人生も悪くない
[服飾史家・コラムニスト] 中野 香織さん



PROFILE
Kaori Nakano

1962年生まれ。東京大学文学部および教養学院総合文化研究科博士課程単位取得。英国研究員などを経て、文筆業。著書に『着るものがな程式』(ともに新潮社)、『スーツの神話』(文春新書)、ウオラク『シャネル スタイルと人生』(文化出版)、『イングランド社会史』(共訳、筑摩書房)と『スーツ』(白水社)など。服飾史家・コラムニスト、ウェブマガジンなど多数の媒体で連載記事。月より明治大学特任教授。

高校生の頃は、医者になりたいと思っていた。

今から思えばおそらく赤面ものだが、読売新聞社主催のある作文コンクールに来てくれた記者の方にそんなふうに出て、翌日の紙面に「将来は女医さん」しまったりもした。

なのになぜいま、こんな仕事をしているのか? ファッションについて本やエッセイ入学当初には夢にも思っていなかったし、いまだって、正直、かすかに居心持てる(ファッションが大好きというわけでもないのである)。

ではなんでここにいるのか? とあらためて考えてみると、どうやら人のご縁だ…というのが偽らざる思いである。

紆余曲折あって文系に転じた大学での2年めの秋、ある旅行雑誌の「女子大生ブームだったのです」の仕事をするようになったのがコラムニスト業のはじまり。そんな仕事を続けながら、イギリス文化を研究するという名目で大学院に進学し、段になって、英国がらみならスーツかな、という安易な発想でテーマを選んだ。材料をアカデミズムで扱うなんて、と顔をしかめる教授が多かったが、さりげなく応じた。

そのなかに、アメリカ文学者の柴田元幸先生がいた。翻訳してみますか? とをまる3年かけて訳したそれが『性とスーツ』という本になった。原文の文体は複雑だが、訳出に苦労したぶん、訳者あとがきは楽しんで書いた。

そのあとがきを、車雑誌「NAVI」の編集者が見てくれた。車なんてカローラしか知らないが、ともかくもその車雑誌で英国洒落者列伝の連載が始まり、それを母体にしたという本ができあがった。

雲の柱・火の柱

▶ [院長 寺園 喜基](#)

バックナンバー

▶ [BACK NUMBER](#)

SEINAN Spirit は
西南学院大学の広報誌です。

これを日本経済新聞社の記者が見てくれた。「半年ほどファッションの話を書
いう提案を受けて、手探り状態で『モードの方程式』という連載を始めた。それが
載をまとめた本も二冊出すことができた。これを、読売新聞社(ご縁が深い)のワ
学院大学でおこなわれたフォーラム「『品格』をさがして」のパネリストとして呼ん
がりがある、本欄でみなさまとこうして出会うことができている。

人が運んできてくれた予期せぬ仕事が新しい人との出会いを生み、その出会
い仕事に導いてくれる…。そんなふうに、人のご縁が私の仕事人生を紡いでく
キャリアでは必ずしもなかったが、行き先を決める要因の半分は人さまのご縁、
で悪くないかもしれない、とも感じている。

[ページの先頭へ](#)

Copyright (c) 2006 Seinan Gakuin University .All rights reserved.